

2009年4月から2010年3月までに、静脈血栓塞栓症で心臓血管外科を受診された患者さんへ

■日本における静脈血栓塞栓症（VTE）治療に関する疫学調査

●背景

静脈血栓塞栓症（VTE）は適切な治療が受けられなければ命に関わる疾患であり、長期的にも血栓後症候群や肺高血圧症を引き起こすなど、患者さんの予後に重大な影響を及ぼす疾患です。国内において、VTE治療に主に使用されている抗凝固薬は未分画ヘパリン（UFH）とワルファリンですが、両薬剤ともに日本人患者における治療効果と安全性を検討した臨床試験成績はなく、治療実態の調査データも乏しいのが現状です。UFHやワルファリンを用量調節する場合の指標となる凝固系マーカーの目標値は、海外に比べ低く設定されることが多いのですが、日本人患者さんでのエビデンスはありません。また国内では静脈フィルターの使用頻度が高いのも特徴ですが、日本人患者さんでの臨床試験は未実施です。このように、国内で施行されている治療法の多くは、主に欧米での成績に基づいたものです。

そこで今回、UFHとワルファリンを中心とした日本のVTE治療の現状を調査し、治療法の有効性と安全性情報を収集・評価しておくことが、2011年より開始された血液凝固第Xa因子阻害薬を中心とする新しい治療法を評価するうえでも重要と考え、多施設共同調査：日本におけるVTE治療に関する疫学調査 Japan Venous thromboembolism treatment survey（JAVA）を行うこととしました。

●目的と内容

本調査は、日本のVTE治療における中長期（6ヵ月～12ヵ月）の転帰並びにVTE治療方法の現状を明らかにすることを目的とし、2009年4月1日から2010年3月31日の期間に川崎医科大学附属病院 心臓血管外科にて治療が開始された患者さんの情報を収集します。

※本調査では、個人名やカルテ番号など、個人を特定できる情報は収集しませんが、調査対象となる事を希望されない方は、下記問い合わせ先までご連絡下さい。

●調査期間

実施承認日より2011年12月31日

●調査医師

調査責任医師：心臓血管外科学 種本 和雄

調査分担医師：心臓血管外科学 田淵 篤、正木 久男、柚木 靖弘

<お問い合わせ先>

〒701-0192 岡山県倉敷市松島577 川崎医科大学 心臓血管外科学

TEL：086-462-1111 FAX：086-464-1189

※本調査の主たる調査機関は、三重大学大学院 循環器・腎臓内科学です。

●その他

本調査は、グラクソ・スミスクライン株式会社より資金提供を受けます。このことは本学利益相反委員会に報告し、適正に管理されます。